

第2回 区行政のあり方懇談会（平成28年1月5日）における主な意見

区民会議

- ・区民会議は区長の直接のアドバイザー的な役割と、区長が打ち出す方針確認する役割を両方を果たせるようにしてもらいたい。
- ・地域の特性に応じた構成の区民会議に、諮問ではないが、意見を聞く場と、地域の課題を解決するために議論する場の役割がある。
- ・区民会議の附属機関として設置すべきではないか。

区将来ビジョン

- ・いきなり区将来ビジョンを作るのは難しいので、区で運営して行くようなものを議論することから始めたらよいのではないか。
- ・市の総合計画とは違った意味を持っているので、区の将来ビジョンを先行して作ってみてはどうか。

区まちづくり基金

- ・地域に貢献するという観点から、地域限定で、緩やかに使途を決める形で寄附を募るという発想はおもしろい。
- ・民間がお金を集めて福祉を提供していく活動がある中で、どこまで行政が福祉を寄附を集めてやるのか、整理すべきではないか。
- ・基金の使い道は、あまり限定すべきではないと思う。

区長権限の強化

- ・区長権限の強化は歓迎すべきことだが、どうしたらそれを区役所全体で活用出来るのか考えないと、名ばかりになってしまう。
- ・区長権限の強化は、まちづくりにもプラスになるし、職員も仕事の達成感を得られるというものをうまく作らないと意味がない。
- ・区長のリーダーシップを支えたり、補足するサポート体制がないといけない。
- ・区長の裁量予算が名古屋市は凄く少ない。

- ・ 区長裁量予算が 500 万円程度しかなくても困るが、1 億円持たされても中途半端な額なので、消化に困ることがある。
- ・ まちづくりも区と本庁のどちらでやるかではなく、区と本庁が一緒になって地区単位でまちづくりをどれだけ丁寧に行っているかという総合力が問われている。
- ・ 区の企画部門が、全体の事業調整をしつつ、上手に運営して行けるよう、形式的な事務は最小限になるよう工夫して欲しい。
- ・ 直接予算要求権があれば局との交渉の中で区長の立場が強まるのではないかと。

総合区

- ・ 総合区にするメリット・デメリットは特別職にするかどうかということ。特別職になると、政治的調整能力が高まる。
- ・ 総合区長は、市長の任命の中で仕事をするので、一定のコントロールは保ちやすいし、最大 4 年間市政に任命できる。
- ・ 今の区長に任されているものと比べ、大きな権限が加われば、特別職や総合区にすることもあるかもしれないが、あまり変わらないとすると疑問がある。
- ・ 区役所の仕事と本庁の仕事を明確に分けるのは難しい。総合区にして単純に事務と権限を移し、区を拡大させるのは難しいかもしれない。
- ・ いわゆる旧五大市の指定都市は、区役所に主に窓口系事務を置いている傾向があるので、もう少し区役所にまかせていい事務があるかもしれない。
- ・ 一部の区を総合区とすると、区長の中に特別職の区長とそうでない区長が並存してしまうので、総合区にするなら全区総合区にした方がいい。もしくは、全区総合区にすることを前提に、実験的に一部の区でスタートするか。
- ・ 総合区長が特別職の重みをもち、区の特성에応じて予算も事務も進めていくと、市全体の効率性を高めるのではないかと。ただ、総合区の必要があるかどうかの見極めは難しい。
- ・ リーダーシップや全体に対する影響などの総合区のいい面はあると思うが、マイナス面もたくさんあって、慎重に考えないといけない。
- ・ 今の名古屋の組織は大きすぎてしまって、局間や局内の調整で、非常に時間がかかっている。福祉の点から言えば、地域のニーズにすぐに対応できるように、区がある程度判断して動けることが必要。
- ・ 総合区長の政治的な偏りや特定の業界に偏るといったことが心配。